

気づかう

伊勢原市立伊勢原中学校

三年

短内

清将

私の祖父は視覚障がい者です。子供の頃、病

で両目が見えなくなりました。視覚

障がいとは視力や視野等の視機能に障がい

があり、見ることが不自由又は不可能になつ

たりる状態のことといわれています。

祖父は生まれつき両目が見えなくなりました

外の景色や色とりりたものを見たことがあり

ま七八人でした。女のいで祖父の小さな頃の夢

牛丼外を一度で良いから5、自分の日でしたか

り見たいんだつたもうである。祖父は目が見え

ないからといつて他人に迷惑をかけたくないなく

うである。私はこれ自分でやるよりにしていたそ

う大抵のことは自分でやるよりにしていたそ

れ川人ならんじと思ひました。なぜなら、もし

私が祖父の立ち場だつたら、何か行動する

太めに人に助けを求める自分一人でやる

しないと思つたからである。



ででも他人を優先でさる祖父の子りな気が  
する人になりたいたと思いました。

私が小学生六年生になりました頃、祖父と一緒に暮  
すことにになりました。視覚障がいのあ

る祖父と一緒に暮らす中で工夫してなにと  
かあります。一つ目は、手を繋いで道案内を  
してあげるようにしました。こうする二と  
によつて安心して移動でくるようになります。  
二つ目は、時計を見ながらのボタンを押す  
と音声で時間を知らせてくれるものに変  
えて

あげる二つです。こうする二つによつ  
て一人になつても時間を取れようになります。  
三つ目は、廊下などの中道に手すりを  
つくりあげることです。もうするここによつ  
てしたが、このような色々工夫をすること  
歩くことをできます。祖父の筋骨等級は一級  
によつて、一般人の生活に近い生活ができる  
ようになりました。

祖父は七くなつてしましましたが、最後の

最後まで他人を気付かず優しい祖父でりてく  
れました。私は祖父のような他人を気付かず  
る人になれように、自分のことだけを考え  
るではなく相手の立場になり、相手の気持ち  
を理解して「一歩」と思いました。また、障が  
いの種類は一つだけではあります。なぜなら、  
その人の障がいに寄り添い、理解して助け  
たりためには、他人を気付かえる優しさが大  
きくなります。

頼ります。